

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	解剖生理学 III			担当教員	外部講師 専任教員		
使用テキスト	1) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学						
テキスト以外の教材・参考書等	1) 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院						
授業の概要と到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>本科目は、「動く」という生活行動を行うときにからだでどのようなことが起こっているのかを学習する。科目の構成はまず、姿勢や体位、それらが日常生活に与える影響を考える。次に「動く」ために必要なからだを支持する骨・関節・筋肉の機能を学習し、それらを動かすために外部から情報を取り入れる感覚器とよりよく動かすように調整し命令する脳・神経系について学習する。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活行動の中で「動く」ということの意味を理解できる。</li> <li>2. 日常生活に関連する体の動きを理解できる。</li> <li>3. 「動く」ために必要な骨・関節・筋肉の基本的構造と働き、伝達経路を理解できる。</li> <li>4. 「動く」ために必要な情報を得るための見る・聞く・話すに必要な器官と機能について理解できる。</li> <li>5. 危険から身を守るための動きに関連する味覚・嗅覚・触覚・反射について理解できる。</li> </ol>							
評価方法	筆記試験						
備考	関連科目：自然科学(生物学), 生化学						

回数	授業計画 学習内容	備考
1	日常生活行動 動く (「動く」が日常生活行動に与える影響) 姿勢 (体位と構え、赤ちゃんが歩くまで、立位の保持)	専任教員
2 3 4	身体の支持と運動 骨格とは(人体の骨格、骨の形態と構造、骨の組織と組成、骨の発生と成長、骨の生理的な機能) 骨の連結：関節(構造、形状と可動性、関節運動の障害) 骨格筋 (構造、作用、神経支配) 体幹・上肢・下肢・頭頸部の骨格と筋 筋の収縮 (収縮機構、収縮の種類と特性、不随意筋の収縮の特徴) 代謝と運動 (代謝とは、運動とエネルギー)	外部講師
5 6 7 8	情報の受容と処理 神経系の構造と機能 脊髄と脳 (構造と機能、脳脊髄液の循環含む) 脊髄神経と脳神経 (構造と機能) 脳の高次機能 (脳波と睡眠、記憶、本能行動と情動行動、内臓調節機能、中枢神経系の障害) 運動機能と下行伝導路 (運動ニューロンと下行(遠心)伝導路) 感覚機能と上行伝導路 (感覚の種類と性質、体性感覚の受容器、皮膚の感覚受容器の分布、上行(求心)伝導路)	外部講師
9	眼の構造と視覚 眼球と眼球付属物 視覚(視野、視力、色覚、遠近調節、明暗順応、眼球運動の調節、反射)	外部講師
10 11	耳の構造と聴覚・平衡覚	外部講師
12	味覚と嗅覚 (構造と特徴)	外部講師
13 14	痛み：疼痛(分類と発生機序)	専任教員
15	終講試験 まとめ解説	